

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和 6年 1月 31日

事業所名:児童発達支援・放課後等デイサービス そらまめはうす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価・意見	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・定員いっぱいになると手狭な感じは否めない。スペースが小さいなりに部屋のレイアウトを変え対応した。	・十分に活動できる広さはあると思います。・運動などは屋外でも活動してもらっている。・人数が多い時は手狭に感じる時がある。	・施設外での活動も充実させ、公園、文教府体育館、同交流館、ワック豊岡等を利用して活動スペースを補った。
	2 職員の適切な配置	・人員基準の遵守を徹底しました。利用児の人数、活動内容、又は利用児の組み合わせ等に応じて更に1~2名の職員を加配しました。		児童発達支援はほぼマンツーマンでの配置が継続出来た。放デイは定員近くの利用がある場合は5~6名のスタッフを配置した。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・保護者からの聞き取り、実際の支援の振り返りから個々に必要な対応を探り適切な環境を整えた。	・室内はエリアごとに整理されていて分かりやすい。	・固定化せずに子供の変化に常に対応する必要がある。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・安全を確保するため、衛生管理、整理整頓を徹底しました。	・子ども達が木工体験などで自分の力で基地を作り広がっている。	・スタッフが常に最適な空間を考えて実行しているのが良かった。手狭ゆえに臨機応変な対応が身に付いている。・木工体験で小屋や収納スペースなど実際に役に立つものを子どもたちと一緒に作ったのは良かった。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・職員会議および日々の業務の中で職員同士が問題点を話し合い、協力、分担して効率的に業務できるようにしている。		・日頃から意思疎通を心掛け、話し易い雰囲気作りを行い、速やかな業務改善へと繋げていきたいと思っています。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・他事業所スタッフと有志が集まり支援者の会を結成し2か月に一回勉強会を開くこととした。		・情報の取り扱いには十分配慮した上で日々の支援の悩みや苦勞を共有しより良い支援に繋げ、評価と言うより他事業所と共に支援力の底上げを図っていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・日々、スタッフ同士が問題点や課題を話し合い反映させることで変化に応じた計画ができた。	・保護者の意見を反映してもらっています。	・計画書に落とし込んだ内容をスタッフ全員が把握して支援を進めていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	適宜行いました。		継続していきます。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・日々の子どもの成長と親からの聞き取りをもとに親も家庭で実践できるよう、具体的に分かりやすい内容の記載を心掛けた。	・分かりやすく示してあります。・家庭や園での困り事等をしかりと対応してもらえ支援内容になっている。	・子どもの日々の観察を入念に行い、成長や変化を見逃さず、それに適した変更を加えて行った。保護者も実践できるように出来るところは記載した。
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・支援の中で着実な実施を心掛けた。支援後は振り返りを行い、ケース記録に詳細に記録し次回につなげ支援の向上を図った。毎月の全体会議だけでなく必要に応じて情報や認識の共有を行った。	・細かく面談で聞いてもらい、その都度内容に応じて検討してもらっています。	・家庭とも連携していけるように保護者にスケジュール表を提供する等を行った。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	職員会議で職員全員で意見を出し合い、次月の活動プログラムを立案、決定している。		・学校や家庭ではできない取り組みを狙って計画を立てた。多様な経験が保護者に喜ばれた。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価・意見	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・各利用児の学校やご家庭での様子を把握し、それぞれの状況やニーズに合わせた支援を心掛けた。		平日は利用児の学校での疲れやストレスを考慮しつつ、ゆったり過ごしながらも自立性や自己選択を重んじる支援を心掛けました。休日は通常ではできない貴重な経験となるような活動の実施を心掛けました。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・良い支援を実践するためには何よりもまず子供たちがその日の活動を楽しみにしてくることが大切だと実感している。	・色々な活動を考えて下さり大変満足しています。・バスに乗ったり買い物に行ったり色んな体験をさせてもらってありがたい。・楽しい活動をいつもしてもらい子供も楽しみに行っている。・毎週プログラムが違うので子供も飽きないと思います。	・保護者からも普段では経験できないことが出来る事を喜んでもらっている。こうした経験の積み重ねが将来役立つことを思いながら継続していきたい。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・午前中の支援開始前、午後の支援開始前、夕方の振り返りで確認を行った。		・支援直前の全体的な活動、個々の支援の要点、注意事項等の職員間での役割の確認をしっかりと行った。前回の反省点、注意点は特に確認を徹底しました。問題点があれば現場リーダーに相談し改善を行った。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・全スタッフに周知できるよう、業務日誌やグループメールを活用した。困った時いつでも照会できるようケース記録も極力詳細に書き残すことを心掛けた。		・スタッフ自らが気づき皆に発信していく事が増えた。一方で子どもの変化に気づき素早く対応していく事の大切さを痛感する事も多い。継続していく。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・ケース記録を作成し、当日の様子が詳細に分かるようにした。次回への改善点も記入した。次の日の支援の準備の際に必ず目を通し、状況を確認した上で準備し、支援に臨んだ。		・スタッフは日々の記録の重要性を認識し、支援計画に対応した観察記録はもちろん、成長や変化は確実に記録している。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・モニタリングでは極力詳細に聞き取りを行った。保護者からの子どもの些細な変化も漏れの無いように聞き取り、必要に応じて計画を変更、追加した。		・子どもの日々の変化を感じ取る感性が何より大切とスタッフ間で共有し日々心掛けている。
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	適宜行いました。		継続していきます。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・保護者から依頼を前提に園や学校訪問を行い情報共有を行った。		・情報共有に際し学校や園によっては対応に温度差を感じるケースがあり、福祉サービスと教育機関の連携の難しさを感じる事があった。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	適宜行いました。		今後、対象の利用児には移行先に適応するために必要な支援、準備を進めていきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価・意見	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	適宜行いました。		継続していきます。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・左記を主目的とした活動は実施していませんが、外出活動の中で機会があれば実施していきます。	・公共の場など同じスペースで活動を各々していることはあると思うがわざわざ一緒に活動する必要は感じない。	主目的として行うことは予定していませんが活動の中で機会があれば実施していきます。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	・近隣で芋を栽培しているスタッフの縁から芋ほりの招待を頂いている。しかしなかなかこちらが主体になっての行事の招待は出ていない。		様々な機会を利用し交流していきたい。
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	適宜行いました。		継続していきます。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・内容を確認してもらい、不明な点や補足は説明後も随時受けている。	・計画書に分かりやすく書かれている。	・保護者や当事者の思いをできる限り計画に反映し、丁寧に分かりやすい説明を心掛けた。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	・保護者からの困り感を聞いた時はすぐに対応し相談助言を行った。	・その時々で相談、支援をしてもらっている。・いつも相談に乗っていただきありがとうございます。・あれば参加したいが実際は仕事で行けない。	・去年よりも更に保護者の子育ての悩みに対する助言や家庭で無理の無い範囲で出来る実践を伝えて行く事の重要性を感じる。些細なアドバイスでも保護者にとっては安心につながる事が多かった。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・保護者と接する機会や連絡帳で極力、情報交換を心掛けた。問題点があれば緊急性に応じて、適宜相談、助言につなげた。	・送迎の時などに話す機会もありちょっとしたことでも聞いたり話したり相談できる場があると思います。・常に困り事や不安な事について相談助言していただき共通理解できていると思います。・毎日の活動を写真などで知らせてもらえる。・LINEで利用の様子が分かり有難い。発達状況や課題についても話があれば教えてほしいです。	・いつでもなるべく迅速に何かあれば対応してきたので保護者の安心に繋がっている実感が持てた。今後も継続して行く。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	4と同様。		・年々件数が増えてきて、相談助言を行って来た。親の安心が子供の安心に繋がっていることが実感できた。親の支援に特化した事業の必要性を感じる。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	・コロナも終息に向かい、新年度には再開したい。	・参加はできていませんが機会があれば参加したい。	毎年5月にに教育委員会に協力いただき就学に向けての相談会を開催予定。保護者会も再開を希望する声も多く、新年度は再開していく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・対応体制を契約時に説明を行った。	・特に苦情がないので分からない。	・保護者からの苦情があつてからでは遅いと共通認識を持ち常に緊張感を持って支援に当たらなければいけない。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・利用児の様子の写真等をメールでお見せする事でよりよく伝わったかと思う。	・LINEで活動の様子の写真などを送ってもらうのでよくわかる。・普段から送迎の時や連絡帳で気になる事のやり取りができ、課題の添った提案をもらえている。	・活動の様子をLINEで送る事は保護者から好評をいただいた。見える化する事で安心し繋がった。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価・意見	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・児童発達支援利用者に関しては柔軟な活動を実施する必要があり、当日に知らせる事にしていった。	・人数の多い中でも活動後にいただけるLINEでの写真や報告で何をしていただけたかがよくわかりありがたい。・HPを観た事がなく何も言えません。・毎週の活動予定を事前に教えてほしいです。(児発利用保護者)	・定期的な会報の作成はまだできていない。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	・スタッフ間でプライバシー保護の内容、重要性の理解、厳正な取り扱いの徹底を図った。		・固定化せず、常に気を配りいろんなケースを侵害に当たらないか検証していく。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを作成し、作成ごとに保護者に通知、通達しました。	・実際に見聞きはしていませんので分かりません。	・マニュアルはあるがケースバイケースで判断していかなければならない場合があった。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	・定期的な避難訓練の他、ほぼ毎月活動に「防災を考える」活動を入れ、様々な災害に関するテーマを設け、子ども自身が災害が起きたらどう行動するかを考える機会を設けた。	・どのくらいの頻度で実施しているのか分からないが半年に一回位では身に付かないのではないかと。・避難訓練をしたとは聞いたことがない。	・利用児も参加しての避難訓練を毎年5月と10月に実施した。防災を考える活動も定期的に行ったが実施日に利用がなかった保護者には周知できていなかった。・R5年11月には消防署と連携して訓練を行った。今後も年5月と10月に実施する。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	虐待防止のマニュアル、ガイドラインを職員全員で確認し、日々の振り返りの中で、スタッフ同士が適切な行動を行えているか確認を行っている。		今年度は1回の研修に参加し、聴講できなかったスタッフにも後日、伝達した。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	適宜行いました。パニック、自傷、他害行為があった場合の個々の対応は職員間で周知徹底し、保護者にも報告しました。重症心身障害児の支援に関しても細心の注意を払い支援を行った。様子は詳細に保護者にお伝えしました。		継続していきます。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食物アレルギー対応表を作成し、全職員が確認できる場所に貼りだしました。おやつ等を提供する際は必ず目を通し確認を行った。不明なことは保護者に確認しました。		・一件、卵アレルギーのある児に微量だが原材料に卵が含まれるクッキーを提供してしまったことがあった。不調には至らなかったが、最初の聞き取り時に保護者とそらまめ双方が確認していなかったことが原因だった。アセスメントシートにアレルギー欄を追加し今後聞き逃しが無いようにした。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	作成し、発生した場合は記録保存して、職員間に情報共有し、再発防止に努めました。		継続していきます。